



TITLE:

<羽田博士追悼録> 羽田博士略歴

AUTHOR(S):

CITATION:

<羽田博士追悼録> 羽田博士略歴. 東洋史研究 1955, 14(3): 76-77

ISSUE DATE:

1955-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/139042>

RIGHT:

羽田博士略歴

明治十五年五月十五日 京都府中郡五箇村字五箇一四九（現在峰山町内）に吉村和の四男として生る。母コマ。

明治三十一年十一月五日 羽田家に入る。養父信明、養母エン。

明治三十七年七月十日 第三高等學校卒業。

同年九月 東京帝國大學文科大學入學。

明治四十年七月十日 東京帝國大學文科大學史學科卒業。卒業論文

「蒙古窩闊台時代の文化」。

同年九月 京都帝國大學大學院入學。

明治四十二年九月一日 京都帝國大學文科大學講師を囑託せらる。

同年 羽田家養女道代と婚す。もと北尾彦太郎長女はつなり。

明治四十三年三月六日 長男明生る。

明治四十五年四月一日 學術研究のため清國奉天及び北京に出張、

奉天故宮に於いて、滿文老檔、五体清文鑑などの寫眞撮影を行う。

大正二年四月二十八日 京都帝國大學文科大學助教任に任ぜらる。

同年八月十四日 長女幸子生る。

大正三年六月十日 ロシアに出張し、ラドロフ博士と會見す。

大正五年八月二十二日 次女綾子生る。

大正八年二月二十五日 次男卓生る。

同年七月二十六日 言語學及びウラル・アルタイ語學研究のため滿

二年米英佛各國へ留學を命ぜらる。

大正十一年五月二十七日 文學博士の學位を授けらる。學位論文

「唐代の回鶻に關する研究」第一篇唐代における回鶻の盛衰、第二篇九姓回鶻とTorus Ordaとの關係を論ず、第三篇回鶻文字考、付元朝秘史に見ゆる蒙古の文化。

大正十二年十一月十八日 三男董生る。

大正十三年四月十四日 京都帝國大學教授に任ぜられ、文學部勤務を命ぜらる。東洋史學第三講座分擔。

大正十五年九月十七日 東洋史學第三講座擔任を命ぜらる。

昭和三年七月 支那へ出張を命ぜられ、東方文化事業に關し商議す。

昭和四年四月一日 東方文化學院京都研究所商議員を委囑せらる。

同年四月十五日 「中央亞細亞の探險とその意義」について御進講。

昭和五年九月 東洋文庫より「元朝驛傳雜考」を出刊す。

昭和六年二月十日 東洋史學第二講座分擔を命ぜらる。

同年四月二十日 弘文堂より「西城文明史概論」を出刊す。

昭和七年十月七日 京都帝國大學文學部長に補せらる。

昭和八年十一月三十日 養父信明逝去。

昭和九年七月二十七日 京都帝國大學滿蒙調查會理事を委囑せらる。

同年十月八日 文學部長を免ぜらる。

昭和十年六月十一日 滿洲國に出張、熱河方面の遼金の遺跡を探查す。

昭和十一年一月十四日 新年御講書始に「金史世宗本紀大定十三年

四月の條」を進講す。

同年七月十日 帝國學士院會員を仰付けらる。

同年十月十九日 京都帝國大學付屬圖書館長に補せらる。

同年十一月二日 勳二等に叙し瑞寶章を授けらる。

昭和十二年十二月二十日 京都帝國大學滿蒙調查會より「滿和辭典」を出刊す。

同年十二月二十八日 次女綾子、時野谷勝に嫁す。

昭和十三年四月一日 東方文化研究所商議員兼理事を委嘱せらる。

同年七月二十八日 滿洲國及び中華民國へ出張、綏遠、南京地方などを實地踏査す。

同年十月十八日 東洋史學第二講座分擔を免ぜらる。

同年十一月十日 帝室博物館顧問を仰付けらる。

同年十一月二十五日 京都帝國大學總長に任ぜらる。

昭和十四年六月二十一日 長男明、池内舒子と婚す。

昭和十五年四月二十四日 中華民國へ出張す。

同年七月二十日 明長女昌子生る。

昭和十七年十二月九日 明次女隆子生る。

昭和十八年八月四日 民族研究所參與仰付けらる。

昭和十九年五月五日 明長男亨一 生る。

昭和二十年二月二十一日 東方文化研究所長を委嘱せらる。

同年二月二十八日 特に親任官の待遇を賜う。

同年四月十八日 勳一等に叙し瑞寶章を授けらる。

同年五月二十三日 次男卓、平松ミホと婚す。

同年十一月一日 願により本官を免ぜらる。

同年十二月十九日 貴族院議員に任ぜらる。

昭和二十一年三月十九日 京都大學名譽教授の稱號を授けらる。

同年十月三十日 養母エン逝去。

昭和二十二年四月一日 財團法人東方學會會長を委嘱せらる。

同年九月三日 卓長男信生る。

昭和二十三年三月二十二日 國立博物館評議員會評議員を命ぜらる。
同年三月三十一日 東方文化研究所の京都大學人文科學研究所への合併に従い所長の職を退く。

同年六月九日 座右寶刊行會より「西域文化史」を出刊す。

昭和二十四年十月一日 法隆寺國寶保存委員會顧問を委嘱せらる。

昭和二十五年五月十三日 明次男次夫生る。

昭和二十六年八月十日 開國百年紀念文化事業會會長に就任す。

昭和二十七年三月 日米知的交流日本委員會委員を委嘱せらる。

同年六月二十五日 三男董、坂本勲と婚す。

同年七月十一日 フランス翰林院よりスタニスラス・ジュリアン賞を贈らる。

昭和二十八年十一月三日 本年度文化勳章を授與さる。

同年十一月二十一日 本年度文化功勞者の一人に選ばれ文化功勞年金を受く。

昭和二十九年十一月三日 第二回京都市名譽市民に推さる。

昭和三十年一月十三日 フランス政府よりレジョン・ド・ノール勳章を贈らる。

同年四月十三日 從二位に叙せらる。逝去。